

本祭り (ほんまつり)

【日程】令和6年4月14日(日)

共揃い 11:00	榊・獅子など7町が出発地点の大工町に集結します。
出発 正午	御神輿の前でお祓いを受けた後、榊を先頭に行列が出発します。
御神事場到着 20:00頃	紺屋町に行列が到着し、御神事場で神事を行います。
目録の奉読 23:00頃	行列は殿町に移動。年行司役面が代々伝えてきた巻物「目録」をととうと読み上げ、各町順番に神社に向かいます。

※目録奉読の時間は過去の祭りを参考に示した目安です。祭りの進行状況により時間は変わりますのでご注意ください。

～本祭り(ほんまつり)～

祭りは、以前は翌日の明け方まで続くこともありましたが、加治町の太鼓・笛・榊、大工町の屋台「玄武」、紺屋町の幟差し、山根町の屋台「朱雀」、下町の屋台「二轉門」、上町の太鼓・笛・獅子・狸々・屋台「青龍」、殿町の御神輿、神官、後供の順に行列が進行します。
華やかに、しかも情緒豊かに日本古来の祭りの良さを今なおにじませています。
家々の門には、それぞれ家紋の入った提灯が並び、はおりはかまに正装した男たちがさんざめき、屋台のギンギンという音と笛の音が鳴り響きます。



～鍛冶町(かじまち)～

加治町の若者は白丁(はくちょう)と呼ばれる装束を纏い榊を担ぎ、太鼓と笛の音色にあわせて家々をまわります。その家に幸福が訪れるようお願い、家の前で「わっしょい、わっしょい」と榊を練り、白い半紙でつくられた「へい」のついた榊の枝をその家に納め、家では神棚にそれを祀り幸福を祈ります。
昔は酔った勢いで民家の入口を壊してしまうというハプニングもあったそうで、ときには荒々しい一面も見せます。



～大工町(だいくまち)～

大工町の屋台は「玄武(げんぶ)」をシンボルとし、町内の威勢のいい若者により進行されます。この屋台には鏡が乗り、屋台の中では大工町の若連中が屋台囃子(ばやし)の生演奏を行っており、祭りならではの笛の音色が楽しめます。



～山根町(やまねまち)～

山根町の屋台は「朱雀(すざく)」をシンボルとし、町内の威勢のいい若者により進行されます。
この屋台には弓・鉄砲隊の衣装をまとい、帽子をかぶった可愛らしい子供「警護(けいご)」が乗っており、屋台の上から愛くるしい笑顔をふりまっています。



～殿町(とのまち)～

殿町は宵祭りの夜、城山神社で御神体を御神輿に迎え下山。祭りの到来を告げるかのように町を練り歩きながら、御神体が一夜を明かす御旅所(おたびしょ)を目指します。
また本祭りの日は、屋台、幟差しなど各町内に守られるかのようにして行列の最後方を進み、上町の獅子舞が奉納される御神事場を目指します。



～上町(かんまち)～

上町は「青龍(せいりゅう)」がシンボルの屋台、笛・太鼓の音色にあわせて舞う狸々・獅子が見ものです。屋台の中には御神酒が乗せてあり、屋根には女若(にわか)と呼ばれる化粧姿の若者が乗って屋台の進行を仕切ります。
また獅子は家々をまわりながら、その家に幸福が訪れるような家の玄関先で舞い、最後は家の玄関の中に体を入れ幸福を招き入れます。
この獅子に頭を噛まれた子供は賢くなるといわれています。
※他町屋台の屋根に乗った化粧姿の若者も同じく女若です。



～下町(しもまち)～

下町の屋台は「二轉門(にてんもん)」をシンボルとし、町内の威勢のいい若者により進行されます。屋台には着物姿に化粧をした可愛い子供「随神(ずいじん)」「鷹匠(たかじょう)」が乗り込み、屋台の上から愛嬌を振まっています。
本祭り当日、下町宿(やど)から行列の共揃えにむけて行進する随神と鷹匠、そして雅楽隊は、さながら祇園祭りを彷彿とさせる優雅さをもっています。



～紺屋町(こんやまち)～

紺屋町は鎧姿も勇ましい幟差し(のぼりさし)が見もの。右手に竹筒をもった鎧武者が、ゆっくりと道を進みます。昔侍の行列を横切ったものが刀で斬り捨てられたように、この行列を前から横切るとは今なお禁じられています。(横切ると地元の方から怒られます)

鹿野祭り行列の順番・道程



行列は大工町(御旅所)を出発し、紺屋町(御神事場)を目指して進行します。(※御旅所と御神事場は開催ごとに換わります。)屋台は大通りを進行し、榊や獅子、幟指しなどは横道にも入っていきます。